

俳句

【小学1年生・2年生】

特選 おとうとととんぼをおってかえりみち

稲枝東小学校1年 神谷 泉采

(評) 兄弟の仲の良さが見えます。その兄弟の前に一匹のとんぼが、帰り道を案内するかのよう現れたのでしょうか。日暮れの帰り道は、不安を感じるものですが、二人と一匹の帰り道は楽しそうです。偶然の出会いが一句となりました。「かえりみち」の言葉も良かったし、ひらがなの「と」の並びもおもしろいです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

特選 すずむしがでんわをするよよるですよ

城北小学校1年 川竹 志波

(評) 秋の季語「鈴虫(すずむし)」の鳴き声から電話を思いついた点はすばらしい。そのすずむしから届いた電話の内容は「よるですよ」と暗くなった夜を伝えています。まるで絵本が始まっていくような一句となりましたね。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 いもうととコスモスばたけかくれんぼ

稲枝東小学校1年 神谷 泉采

(評) 秋の季語の「コスモス」の一句。コスモスは、一・五メートルにもなる一年草。白やピンク、深紅色しんくなどのかれんなコスモスの花畑の中で姉妹または兄妹がかくれんぼをしている様子が見えます。いもうとのかわいらしさをコスモスの色彩が効果的に引き出しています。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 おほりばた歩いてゆけば夏の風

城南小学校2年 吉田 治且

(評) 彦根城のおほりばたをたまたま歩いた時に、顔や肌に夏の風が触れたのでしょうか。見えない「夏の風」に触れることにより一句となりました。自分の感覚を上手に使えました。彦根城という言葉を使っていませんが、この句に彦根城が見えてきます。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 やなぎのきほそいはつばがおどってる

城北小学校2年 牧野 圭佑

(評) 春の季語「柳(やなぎ)」の一句。彦根城主の井伊直弼は、特に柳の木を好んでいました。埋木舎の前の通りにも、埋木舎の中にも柳の木が植えられています。「やなぎ」をしつかり観察して詠むことができました。「やなぎのき」に彦根の歴史が見えてきます。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 ゆうやけでみんなのかおがまつかだね

城北小学校2年 横井 愛子

(評) 夏の季語「夕焼(ゆうやけ・ゆふやけ)」の一句。太陽が西に沈む間に生

じる太陽光の現象。みんなで遊んだ帰り道、西の夕日を浴びて空や山と同じように「かおがまつか」に照らされたところを上手に詠むことができました。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 のりたいななおすけのかごはるの日に

高宮小学校2年 中村 奏仁

(評) 彦根城の城主の一人井伊直弼を学ぶために埋木舎に行きました。玄関に展

示してある「なおすけのかご」に興味を持ったのでしょうか。自動車や電車、飛行機などの移動手段しか知らないで、人力のかごの乗り心地を体験したいと思ったのでしょうか。「なおすけのかご」から城主と同じ気持ちになつてみたい作者の心が伝わります。彦根城の桜もイメージできる「はるの日に」という季語を用いた表現もよかったです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

佳作 おちばはねふむとさくさくいいおとだ

城北小学校1年 塚田 悠太

佳作 どんぐりがさかをころがりコロコロン

城陽小学校1年 内崎 陽登

佳作 雪だるまがころりころがしぶつかった

城東小学校2年 田邊 絢音

佳作 はなびがねひこねじょうとかさなるよ

城東小学校2年 秋山 佳苗

佳作 スイカわりだれがわるかなドキドキだ

城北小学校2年 北村 郁人

佳作 こうようが山いちめんひるがるよ

城北小学校2年 田中 陽人

俳句

佳作 あかとんぼはねをきれいにひらけてる

城陽小学校2年 疋田

生衣

佳作 うごくかなせみのぬげがらへばりつく

高宮小学校2年 中村

奏仁

佳作 いろはまつたくさんならぶせいくらべ

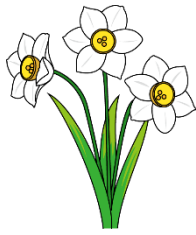
鳥居本小学校2年 魚住

咲月

佳作 すいせんはほしにそっくりかわいいな

城西小学校1年 中村

友乃



入選 おいしいなぼくがそだてたさつまいも

城東小学校1年 田端

蓮

入選 こけたけどたのしかったようんどうかい

城東小学校1年 神谷

修輔

入選 あかきいろあきこそきれいきのはっぱ

城北小学校1年 小栗

快斗

入選 どんぐりでらいおんつくつてたのしいな

鳥居本小学校1年 平田

楓眞

入選 こわれたなゆうびんぼすとたいふうで

平田小学校1年 宿谷

颯佑

入選 あきのかぜいいきもちだなはしるんだ

城東小学校2年 関

晴香

俳句

入選 さくらもちピンクのいろがかわいいよ

城東小学校2年 陰平 奈緒美

入選 いろはまつとんぼひらひらあそんでた

城北小学校2年 牧野 圭佑

入選 みのむしは木にぶらつくとゆうれいだ

城北小学校2年 金澤 杏奈

入選 ムスカリはぶどうみたいでかわいいな

城北小学校2年 中島 結耶

入選 カマキリはたまご200こむんだよ

城北小学校2年 高野 蒼椰

入選 いわしぐもつぶがいっぱい大すきだ

城北小学校2年 横田 優真

入選 すずむしがリンリンリンとおおさわぎ

鳥居本小学校2年 小堀 柊斗

入選 あきの空雲があがるとあおい空

平田小学校2年 松井 大惺

入選 こおろぎのこえがいいこえかぜがふく

城陽小学校2年 大橋 真湖



【小学3年生・4年生】

特選 十五夜に光りがやく彦根城

旭森小学校3年 宮川 杏弥

(評) 彦根城は、彦根の人々にとってシンボルとなっているお城です。そこに一年中で最も美しい名月が夜空をこうこうと照らし出し、より一層彦根城が輝かしく見えてきます。秋の季語「十五夜」を上手に使えています。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

特選 まゆの中もぬけのからでひょうしぬけ

城南小学校3年 中清水 初奈

(評) 夏の季語「繭・白繭」を実際に触れてみて、繭の中に蛹が入っていることを期待していた作者は、すでに成虫になって飛び出したことを知り、その気持ちが一句となりました。「もぬけのから」という言葉を上手く使っています。気持ちを表現した「ひょうしぬけ」と響き合って「ぬけ」の重なりがおもしろさを出しています。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

特選 テーブルをかこんで食べるおでんかな

亀山小学校4年 河野 光希

(評) 冬の季語「おでん」を使った一句。家族の団欒が見えてきます。おでんの具材に箸が進みます。畑の作物の大根なども入っているかもしれません。切れ字の「かな」も上手に使えています。

(彦根文芸協会 赤木 和代)



準特選 母の手と虫の音ひびく玄宮園

旭森小学校3年 宮川 杏弥

(評) 毎年秋になると玄宮園で行われる観月の夕べや虫の音を聞く会が催されます。その場所に母と一緒に出かけ、虫の音を聞いてきたのでしょうか。母の体の一部の「手」を用いたところに親子の絆きずなやぬくもりが見えてきます。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 もみじ見てわたしの気持ちまっかだよ

城北小学校3年 宮本 千結

(評) 秋の季語「紅葉(もみじ・もみぢ)」の一句。「もみじ」の作品には、葉の色を表現したり、散る様子を表現する句が多いです。この句は、それらとは違い、あまりにも赤いもみじを見て、自分の心まで「まっか」に染まったというオリジナルで感性のある句となっています。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 赤とんぼ田んぼを下にパトロール

城陽小学校3年 三橋 昇也

(評) 秋の季語「赤蜻蛉(あかとんぼ)」の句も例年多く、必ず空を飛ぶ景が詠まれています。この句は、飛んでいる場所を限定したところがよかったです。そして、「パトロール」という仕事を赤とんぼにさせ、擬人化したところがよかったです。と思います。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 ひまわりとしんちようくらべまけちやった

平田小学校4年 尾本 莉彩

(評) 何かとせいくらべをさせる句も多くなりましたが、この句の場合はその結果を詠むことで他の人の作品とは違った点を表現できました。いかに夏の季語「向日葵(ひまわり・ひまはり)」が高いかということと成長の早さが伝わってきます。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 ゆきさわりひんやりするのがキーン

城陽小学校3年 岩田 早紀

(評) とても個性的な一句。誰も経験したことのある事柄を上手に一句に詠んでいます。夏の季語「かき氷」の句によく出てくる「頭がキーン」という表現があります。この句の場合は、冬の季語「雪」の中に手を入れて、あまりの冷たさに「キーン」となったようです。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 2階から月をながめる君とぼく

亀山小学校4年 河野 光希

(評) 秋の季語「月」の一句。「月」を詠んだ作品も多く、夜空の月を眺めているのは作者一人の場合が多いです。または、「うさぎ(冬の季語)」が「もち(冬の季語)」をつくという景がよくあります。他の作品と同じ景では真似になるため作品として選ばれませんが、この句は「君とぼく」の二人を登場させたことでオリジナルとなりました。「2階」は「2階」がよいと思います。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

俳句

佳作 とりいもとしずかなまちにすずめのこ

鳥居本小学校3年 川部

大翔

佳作 よう虫はどんぐりの中にヒミツキチ

佐和山小学校4年 北川 広琉

佳作 秋と友とおおやまこやまかけめぐり

城北小学校4年 林 奏向柊

佳作 こうようとときねんしゃしんはいチーズ

城陽小学校4年 巴 芳代子

佳作 クリスマスサンタえんとつ入れない

平田小学校4年 疋田 瑞貴

佳作 もみじの木ひろがる赤き道のりを

若葉小学校4年 有馬 太陽

佳作 なおすけの青春時代のはぎのにお

高宮小学校4年 中村

天音

佳作 ひまわりよ大きくせのび雲つかめ

城西小学校3年 徳永 明李

佳作 手をつなぎさくらのじゅうたん通りけり

若葉小学校3年 洞田 望宙

佳作 あきのよるそらにかがやく一とうせい

城東小学校4年 北川 結翔

佳作 どんぐりのきょうだいたちがせいくらべ

城東小学校4年 國領 元伸

俳句

入選 ねんまつだもうすぐ年がおわるころ

城陽小学校4年 高須 瑞樹

入選 買ったあとベンチで焼きいもほつくほく

佐和山小学校4年 原 有優実

入選 紅葉が川にながれてたびしてる

佐和山小学校4年 前後 樹希

入選 もみじの葉地面につもればカーペット

城東小学校4年 清水 彩音

入選 あきのそらきれいなゆうひにみとれてる

城東小学校4年 清水 恵大

入選 まっ黒にそまった夜に虫の声

佐和山小学校4年 竹内 春馬

入選 もみじの葉まいおちていき火事のように

佐和山小学校4年 原 藍里

入選 動物はどうみんなじゅんぴいそがしい

佐和山小学校4年 大橋 結芽

入選 ゆうやけよあかいひかりがおちてゆく

城北小学校3年 木村 草太

入選 さんさいとり自然にできたおくりもの

佐和山小学校4年 小川 大惺

入選 満月に行ってみたいと夢みてた

若葉小学校4年 山岡 蘭丸

入選 気がつけばかいネコこたつで丸くなる

稲枝北小学校4年 真野 至流

入選

紙風船すいかのもようおいしそう

若葉小学校3年

権代

優紗

入選

カマキリがおおきなかまをふりあげる

城陽小学校3年

林

尚桜

入選

あめのひにみどりのかえるとんでいた

城陽小学校3年

元持

翔貴

入選

よぞらみてきらきらひかるなつのほし

城南小学校4年

高橋

みのり

入選

みずのなかしたからみるとみじちる

城東小学校3年

長谷川

慶次

【小学5年生・6年生】

特選

赤トンボわたしと共に登下校

城東小学校5年

川島

久瑠美

(評)

「赤トンボ」秋の季語。童謡「赤とんぼ」の歌詞に「夕焼小焼の赤とんぼ」があり、赤とんぼというと「夕焼」。小学生の俳句には毎年、この「夕焼と赤とんぼ」が沢山詠まれます。今回の作品は、「わたしと共に登下校」の部分がオリジナルです。たしかに私もこの頃の記憶があります。心の休まる句。

(彦根文芸協会

馬場

美也子)

特選

コスモスや風と一緒に歌ってる

城西小学校6年

小川

朋子

(評)

「コスモス」秋の季語。風にいつも揺れて、優しい感じのコスモスは、強靱な性質を一面持っています。台風や強風によって倒されても、茎は地に着いた所から根が出て直立になるから不思議。すごい生命力というか逞しい。作者は、「一緒に歌ってる」と明るく前向きな所がよいと思います。

(彦根文芸協会

馬場

美也子)

特選 ひまわりはいつもわたしをはげました

城陽小学校5年 松宮 美幸

(評) 「ひまわり」夏の季語。日中一杯咲き続けていた向日葵も、さすがに日暮

ともなると疲れてきて首を回し、しかる後首を垂れて一日を終えます。そんな様子をうまく一句に納めています。向日葵は日車とも書き、日の回転に伴って咲く花のイメージが強いです、作者のこの句の表現は良いと思います。

(彦根文芸協会 馬場 美也子)



準特選 だんごむし落葉の下で丸くなる

城東小学校5年 北沢 茉結

(評) 「落葉」秋の季語。俳句をはじめたからこそ自然に感動し、悲鳴を挙げてい

たであろう虫を発見し、じっくり見るようになったと思います。

(彦根文芸協会 馬場 美也子)

準特選 焼き秋刀魚煙とにおいぼく包む

城東小学校6年 田辺 普賢

(評) 「秋刀魚」秋の季語。秋刀魚というとすぐ目黒の殿様の話が連想され、「こ

んなおいしいものがこの世にはあったのか」という程美味いというイメージがあります。この句にも秋の味覚がうまく表現できています。

(彦根文芸協会 馬場 美也子)

準特選 紅葉で山がいつぺん真っ赤色

城北小学校5年 林 陽向太

(評) 「紅葉」秋の季語。物が発したメッセージを作者が内省的に、しかし、しつ

かりと受けとめている作品です。この山のように人は輝く時があるのだと思いますよ。

(彦根文芸協会 馬場 美也子)

準特選 夕やけが木のかげかくれんぼ

城北小学校6年 辰野 瑠唯

(評) 「夕やけ」夏の季語。夕やけには、原始に返らせる大きな力があると思います。夕やけの景に抱き込まれて行って純化されるような感じがします。天地の夕やけの交響が一層さわだつて来ます。夕やけが木にかくれたと観察されたところがよかったです。

(彦根文芸協会 馬場 美也子)

準特選 風鈴がチリリリンと鳴いている

城陽小学校5年 中川 意露

(評) 「風鈴」夏の季語。夏の夜空に涼を求め、風鈴の音に耳を傾けていると、ふと聞こえてきた音。それはきつと星の触れ合う音と思えるような、まさにメルヘンの世界。作者のたしかな、感性を感じます。

(彦根文芸協会 馬場 美也子)

準特選 山桜川の流れと散る花卉

鳥居本小学校5年 武田 心稀

(評) 「山桜」春の季語。日常と非日常という視点から言えば桜が咲いている状態は正に非日常ととらえることができます。だからこそそこに人の心を強く動かすものがあるのです。そして桜の花が散り、葉桜となったとき、これこそ日常。そこに故里の色との思いを深くするのです。情景もしっかり見えています。

(彦根文芸協会 馬場 美也子)

準特選 くりのからいたいなかにはたからもの

稲枝北小学校5年 柿添 みく

(評) 「くり(栗)」秋の季語。作者は「くりのから」と詠みましたが、他の季語「毬栗」「落栗」を使っても良かったと思います。
いぐるみのいたいなかにはたからもの
刺のある毬の割れた中に、光沢のある栗を見つけ宝物を発見したように感じている作者が見えます。

(彦根文芸協会 馬場 美也子)

俳句

佳作

わたりどりいっぱいとんでつかれたな

稲枝北小学校5年

平田

悠真

佳作

ミンミンと神社にひびく蟬の声

金城小学校5年

佐竹

由妃

佳作

直弼の蟬の殻ある埋木舎

金城小学校5年

佐竹

由妃

佳作

紅葉のやさしい色に包まれる

城西小学校5年

福原

みはな

佳作

つたの葉がきれいな色でおでむかえ

城西小学校5年

來住

柑那

佳作

転校生教室入るとんぼかな

城南小学校5年

西堀

有咲

佳作

きれいだなまんげつによるすてきだな

城北小学校5年

越後

美音

佳作

ともだちとお花見したよいきもち

城陽小学校5年

澤田

仁

佳作

もみじの葉ほつぺたみたいな赤色だ

城陽小学校5年

小川

光生

佳作

秋まつり旬の食べ物おどってる

城東小学校6年

サントス

ジョツシュ

俳句

佳作 ゆうやけでとんぼみえないどこいった

稲枝北小学校6年 西野 美織

佳作 運動会応援の声なりひびく

稲枝北小学校6年 佐渡 優菜

佳作 夏まつりワイワイ出かけ楽しもう

城西小学校6年 小倉 彩伊伽

佳作 夕やけが町をまっ赤に染めてゆく

城北小学校6年 西田 声風

佳作 ゆきだるまバケツをかぶるあったかい

城東小学校5年 田原 光晟

入選 給食にマツタケ出たよびつくりだ

城東小学校5年 小林 利緒

入選 彦根城月夜の光に照らされて

城東小学校5年 吉田 結衣

入選 もみじのはたくさんあつめおうちだよ

城東小学校5年 林 悠香

入選 秋の山とてもあざやか落ちつくな

城東小学校5年 高橋 桜

入選 おはようときんもくせいがおう朝

城東小学校5年 山田 瑚雪

入選 空高くきれいに広がるうろこ雲

城北小学校5年 辻 瑠唯

俳句

入選 やきいもをみんなであけてたのしいな

稲枝北小学校6年 西村 滯莉

入選 どんぐりを拾って遊ぶ友達と

城陽小学校5年 服部 優

入選 こおろぎがみんなであう音楽会

城陽小学校5年 高木 帆香

入選 セミがなく今年も十日がんばって

城陽小学校5年 疋田 望生

入選 あさのそらかぜとことりでめがさめる

城陽小学校5年 西関 茉優

入選 ゆきのなかげんきいっぱいぬはしる

鳥居本小学校5年 西川 怜

入選 母はかに私はうさぎ月の中

平田小学校5年 柴田 紗希

入選 もみじの葉ゆらゆらとんできれいだな

城西小学校6年 宮田 結衣

入選 クリスマスマくらもとはにはプレゼント

城西小学校6年 山口 蓮

入選 冬の夜サンタくるのをまっている

城西小学校6年 山口 直次郎

入選 夏休み本を片手に感想文

城南小学校6年 峯松 陸

入選 彦根城夕日と共に輝くよ

城北小学校6年 中久木 大祐

入選 山々が赤や黄色に衣替え

城北小学校 6年

岩淵 海人

入選 不機げんだ紅葉を見たらいい気分

城陽小学校 6年

寺寫 琉生

入選 金魚がね店番してる屋たいかな

平田小学校 6年

石川 楓歩

入選 もみじがね景色を赤にそめていく

城東小学校 6年

鉄石 亜沙美

【中学生】

特選 秋がきて彦根の町もあざやかに

彦根中学校 1年 上田 真緒

(評)

彦根の町に秋が来た。城をとりまく樹々も紅葉して美しい。何より城まわりがある。大勢の観光客も来てキャッスルロードは大賑わい。作者はあざやかにと言っている。何でもない一句の中に沢山の意味がふくまれている佳句。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

特選 しゃぼん玉どこまで飛ぶのどこまでも

中央中学校 2年 北沢 栞菜

(評)

一吹のしゃぼん玉が日光に映じて美しい色彩を放つ。次から次へ飛び出すしゃぼん玉。「どこまで飛ぶのどこまでも」のリズムも良い。中の一つは宇宙まで飛んでゆくのかも。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)



特選 いまになり日に日にあせる受験生

稲枝中学校3年 門野 百笑

(評) 受験の季節がやって来た。本人は勿論、親御さんにしても大変な時期。「日に日にあせる」気持は反省の気持だと思う。俳句に出来る位だから余裕がある。とにかく頑張るほか仕方ない。ご健闘を祈る。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

特選 ひまわりとせいくらべするこどもたち

稲枝中学校3年 猪塚 萌那

(評) 一面のひまわり畑に入っている子供達。中にはひまわりとどっちが大きいと背競べしている光景が見え、ひまわり畑の一光景を切取った一句。楽しそうですね。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 夕ぐれのすすき広がる一本道

彦根中学校1年 茶木 南穂

(評) 芒原に風が吹き渡って、白銀の波がはるかかなたまでつづく一本道。下校時かも知れない。夕日に照りかがやく芒を写生しての一句。光景が目に映ります。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 台風が1つさってまた1つ

彦根中学校1年 水口 陽樹

(評) 今年は何回も台風がやって来た。「1つがさってまた1つ」とうまく言ったことに成功。好感の持てる句だと思う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 年賀状今年は何枚届くかな

中央中学校2年 原 杏奈

(評) 何でもないことを一句に仕立てて成功。誰も思うことだけ句には出来ない。さて今年は何枚届いたのかな。作者の思いがこもった一句である。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 竜胆が一人でそつと咲いている

中央中学校2年 北村 楓

(評) 竜胆は山野に自生し、古くから観賞されている。作者が出会ったときは群
落でなく一本だったかも知れない。一人でなく他の言葉を探せばもつと良い
句になったと思う。佳句。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 窓際に並ぶ手袋色とりどり

中央中学校2年 福渡 彩英

(評) 教室や廊下に並ぶ子供たち。手袋の色がさまざまであることを発見した作
者。写生のきいた一句です。話声まで聞こえて来そうです。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 クリスマス皆でかこむケーキの火

中央中学校2年 小川 優斗

(評) たのしいクリスマスがやって来た。一家で囲むクリスマスケーキ。話声ま
で聞こえて来ます。この夜のこととは将来忘れないことと思います。楽しい一
句。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 思い出す昔の家の隙間風

中央中学校2年 柿本 桃佳

(評) 隙間風も思い出となった今の子供達。今はテレビの中に出てくる様な住宅
に住み、便利な世の中になったけど全部がそうではない。思い出は思い出と
して心にしまっておくことも必要。異なる隙間風のあることを忘れないよう
に。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 公園に小さなきのこポツポツと

中央中学校2年 石井 亜実

(評) 遊園地は子供たちにとってまほろば。遊び疲れてふと目をそらすと小さな
茸が「ポツポツ」良い所に目がゆきましたね。でも毒茸かも、小さな発見に拍
手。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 遠目にも山を染めぬく紅葉かな

彦根中学校3年 小林 峻輔

(評) 秋になると空気も澄んで周りの山々がよく見える。「遠目にも」とよく言い
ましたね。そして、紅葉が山々を染めて行く光景をすばらしい一句に仕上げ
られたことに拍手。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

俳句

佳作

秋になり山もおめかしきれいだな

彦根中学校 1年

村西

愛唯

佳作

彼岸花大雨打たれしおれてる

彦根中学校 1年

馬場

優月

佳作

こんにちわかわいく顔出す露のとう

中央中学校 2年

野尻

萌

佳作

冬の夜彼女の背中がさみしそう

中央中学校 2年

永山

翔太

佳作

頂上で景色に感動山笑う

中央中学校 2年

田口

澁

佳作

あの子とさ同なじセーターもってるよ

中央中学校 2年

山下

玲那

佳作

色づいた林檎のにおいしそう

中央中学校 2年

福居

歩美

佳作

朝起きて町に広がる雪景色

中央中学校 2年

小野

恭一

佳作

初詣今年の運勢おみくじで

中央中学校 2年

小川

優斗

佳作

ふと空を見れば一面いわし雲

中央中学校 2年

山口

美優

俳句

佳作 このもちのふくらみが私の夢みたい

中央中学校2年 中江 紗妃

佳作 風吹いて紅葉舞い散る彦根城

中央中学校2年 中村 翔

佳作 名月が見える窓辺で勉強を

稲枝中学校3年 田中 優希

佳作 声出してはしって寒さをふきとばせ

中央中学校3年 川分 翔太

佳作 よい目覚めアラーム替わりセミの声

鳥居本中学校3年 北川 愛冴仁

佳作 川べりの紅葉ほんのり色づいて

鳥居本中学校3年 利根川 遊々

佳作 ほくほくの焼き芋心をあたたためる

南中学校3年 若林 希咲来

佳作 雪道や時間のかかる登下校

南中学校3年 古川 麻依

佳作 雪積もり家族みんなで雪合戦

南中学校3年 内堀 美咲

佳作 楽しさで寒さ忘れる滑り台

彦根中学校2年 北田 麻央

俳句

入選	初夏の風僕のチューバの音運ぶ	南中学校1年	三橋	力也
入選	あさのみちくちからでるよしらいいき	彦根中学校1年	謝名堂	こと美
入選	新米でまいにちさいこおかわりだ	彦根中学校1年	中野	翔太
入選	えんそくだたのしくあるきゴールした	彦根中学校1年	山口	翼
入選	彼岸花亡き者送る別れ花	中央中学校2年	樋口	彩佳
入選	空見るとむらさきピンク初景色	中央中学校2年	川端	宏美
入選	少しずつとけていつてる氷柱など	中央中学校2年	川端	宏美
入選	ポスト開け中をのぞくと年賀状	中央中学校2年	永井	祐貴
入選	オリオン座それ見て吐くは白い息	中央中学校2年	伊吹	彩希
入選	冬眠で動物達は土の中	中央中学校2年	生駒	有都
入選	ふんわりと霧が私をつつんでる	中央中学校2年	近藤	穂佳
入選	僕は鯛集団でしか動けない	中央中学校2年	尾本	順慶

俳句

入選

天の川暗い夜空をかざりつけ

中央中学校2年

江龍

輝星

入選

カラフルだ心をいやす春の花

中央中学校2年

伊谷

恭弥

入選

菜の花や太陽に照り金色に

中央中学校2年

田中

惟登

入選

はつしものさくつとおとがみに付く

中央中学校3年

平野

真帆

入選

こうしやからあまいにおいのきんもくせい

中央中学校3年

横山

王華

入選

彦根城満月を背にそびえたつ

中央中学校3年

山元

彩白

入選

肌寒くなるこの頃の季節好き

中央中学校3年

石橋

陽茉理

入選

一日中終わることない蟬時雨

鳥居本中学校3年

立岩

結花

入選

秋刀魚焼きみんなで食べる夕ご飯

鳥居本中学校3年

利根川

遊々

入選

夕やけに並んで歩く2人の影

南中学校3年

田尻

杏奈

入選

紅葉で赤く染まりし城の堀

南中学校3年

西村

渚海

入選

金木犀ほのかに漂う澄んだ朝

南中学校3年

奥屋

蒼生

俳句

入選

クリスマスゆめをあたえるおとうさん

南中学校3年 伊丹

伶那

入選

「あと三分」布団から外に出られない

南中学校3年 中村

祥一朗

入選

家揺れる接近してきた台風が

南中学校3年 高田

成希

入選

ちらちらと桜舞い散る彦根城

南中学校3年 村田

巧輝

入選

渡り鳥夕日にそまり飛んでくる

南中学校3年 上田

雅心

入選

春の日に散歩をしようのんびりと

南中学校3年 浅井

悠佑



【総評】

小学生から中学生の応募作品につき、基本を重視しながら各選者で丁寧に選句を致しました。

①文字の形式 五七五（十七文字）

②季語（季題） 季語を一つ用いる。

③写生をすること 対象をしつかりと見る。

今回の作品の中にも季重なりや無季の句があり残念な句が多かったです。その中で、特選や準特選に選んだ作品は、基本の上に発想が素晴らしかった作品、感性のある作品、オリジナルで景色の浮かんでくる作品となりました。

小学生（一〜二年生）は、友達とちがう視点で俳句を詠めている人がよかったです。「うれしい」「たのしい」は外はずして詠んでみましょう。

小学生（三〜四年生）は、個性的な句がよかったです。友達とちがう季語に挑戦して別の景色をいくつも詠んでみましょう。季語を知ることが必要です。

小学生（五〜六年生）は、季語がなかったり季重ねの句が多く、作品として損をしていると思いました。また、形式（五・七・五）の中句が八

語になっている句も見られ残念でした。視点や表現の工夫については、友達の観察の仕方をよく見たり聞いたりしながら、もう少し自分の発想を生かしてほしいと思います。

中学生は、季重ねの句が多かったように思います。面倒でも歳時記を開いて確かめましょう。また、昨年より表現力の差を感じました。毎日の新聞の活字や一冊の本から学ぶ表現力が力となります。特に多感な時期の中学生の皆さんには、感性を生かした表現の一句を期待します。

さて、今年の夏休み文芸ワークショップは、昨年と同様俳句手帳を用い、「紙風船」「繭」などの季語に触れたり、「護國神社」↓いろは松↓埋木舎）吟行を行いました。大久保氏のご好意で「埋木舎」「井伊直弼」に関わる子ども達の作品を井伊直弼の歴史・文化作品とともに埋木舎にて一年間展示していただくことになっています。ご家族皆様で是非ご覧下さい。

（彦根文芸協会 馬場 美也子）

（彦根文芸協会 野瀬 章子）

（彦根文芸協会 赤木 和代）